

4月から4ヶ月の間、新入園のおこたちも、そのおこたちを温かく迎えた進級児たちと仲良しの輪を広げることに勤めた。第1学期の終了の日を迎えました。

明日から夏休みに入るおこたちと年少組と年中組さんたち、石狩港とお祭り会の後に夏休みに入る年長組さんたち、楽しい夏休みを送ってください。夏でなければ出来ない経験を楽しんで、8月22日(月)の2学期始業の日、元気いっぱい笑顔を待っています。

■ さか立ちで2歩、3歩あるいた「さか立ちでまた」が一般的ですね。でも自発的の子たちはこれでは満足しません。新しい意欲が芽を出すのです。

ここたちのその意欲に添えるべく「名人コンテスト」があります。

5メートルの距離をさか立ちであること「名人」の称号のGETです。

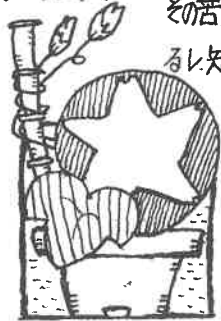
決して簡単で、安易に達成できる目標ではありません。

さか立ちで2歩~3歩あるけるようになるほど大変な努力を必要としてきて、沢山の汗を流し、失敗の連続でした。

3歳の子に、4歳の子のどこに失敗して失敗してあきらめにやめるかと言う精神力はあるだろうか。頑張ってきたその精神力は5歳の年長児になってその本領を発揮します。

「名人コンテスト」合格まで、個人差はあるもののそれぞれに大変なドラマがあります。

何度も何度も失敗します。くやしさを何度も、くやし涙を何度も流し、その苦勞の様子は、周りのおこたちみんなが見ると知っているし、応援してくれます。



「こどもは環境で育つ！」正にその通りです。

それぞれ人的環境で、沢山のここたちとやさしく見守ってくれるスタッフ達です。

「自分さえ良ければ!!」と言う仲間が一人も居ません。

みんなが苦勞しているから、他人の苦勞が分かります。みんなが思いやりの心を持っている。こどもの世界が自発的なのです。

そんな自発的のここたちを温かい気持ちで応援してください♡

(心の育ちシリーズ)

## 粹いぎに生きる!

人は誰しも損得勘定を持っています。それを何よりも大切にすることは鬼力はないですね。例えば親子でクリスマスパーティに行きましょう。子どもが引込み思案でサンタの所へなかなか行きません。

「何でてるの! 会費払ってるんだから貰わないと損するよ」などと親の声を良く聞きます。

でも、こんな話を聞きました。ある雨の日、日が暮れる頃になって娘がなかなか帰って来ません。心配な母親が学校に行くと娘はさすが濡れになってグラウンドに。母親は「何でてるの!」と怒ります。

娘は「OΔちゃん先生に怒られてグラウンド走ってるの。だから私をここで待ってるの!」と。

こんな時、皆さんが母親の立場だったら何と声をかけますが。「OΔちゃんはOΔちゃん、あなたは何でして! 風邪を引いたら意味ないでしょ!」と言いかも知れません。どちら間違っているかは分かりませんね。よくある一般的な対応ですね。

でも、この文が「粹いぎかどうか」と言う観点から見ると「粹いぎとは言えませんね。「正しいか正しくないか」だけでなく、「粹いぎかどうか」の尺度を持つこと大切ではないでしょうか。

粹いぎとは「美しく生きる」と言うことです。この娘さんの行動は損得勘定を越えているのです。

損得勘定に支配されている限り人生はドラマチックには行かないでしょう。

「この粹」と言う価値観を合点を持って自分の人生を視聴率のとれる面白いドラマにして行くことが出来るでしょう。

みよぞき中央新聞講演会 絵本作家岡根 幸樹 講演より